

4 修了要件と学位授与プロセス

4-1 修士課程修了要件

以下のすべてを満たした場合、修士課程修了となり修士（造形）の学位を取得することができます。

- ・本大学院修士課程に2年以上在学すること。
 - ・本大学院修士課程の授業科目について、「基礎科目群」から必修2単位、選択2単位以上、「専門科目群」から選択4単位以上、「プロジェクト科目群」から必修4単位、「ソーシャルスキル科目群」から選択4単位以上、「領域科目群」から選択4単位以上、特別研究10単位を履修し、合計30単位以上を修得すること。
 - ・修士論文又は特定の課題についての研究の成果を提出し、審査及び試験に合格すること。
- ※特定の課題についての研究の成果を提出する場合、研究副論文の提出が必要となります。

学位の授与プロセス

年次	月	事項	備考
1年次	10月	領域科目群中間発表	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジюмеをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
2年次	6月	中間発表(公開)	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジюмеをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	10月	予備申請	「学位授与予備申請書」を教務課に提出
	11月	学位審査委員決定	研究科委員会にて学位審査委員決定
	1月	修士論文、特定の課題についての研究の成果 提出締切	指導教員に以下を提出 修士論文の場合 (1) 修士論文 (2) 学位授与申請書(論文) 1部 (3) 論文要旨(A4版2,000字程度の和文及びA4版1,000語程度の英文)各3部 特定の課題についての研究の成果の場合 (1) 作品一式 (2) 学位授与申請書(特定の課題についての研究) 1部 (3) 研究副論文(A4版20,000字程度、和文)正1部、副2部 (4) 研究副論文要旨(A4版2,000字程度の和文及びA4版1,000語程度の英文)各3部 (5) 保存用写真資料(A4版) 3部
	1月下旬	審査、修士論文等発表会(公開)	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジюмеをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	2月中旬	審査結果の報告	主査は審査委員会が作成した修士論文等審査結果及び最終試験結果報告書を提出
	2月下旬	修了及び学位の認定	研究科委員会にて修了及び学位授与の可否を審議、議決
	3月上旬	大学保管用	成果物一式を教務課に提出
	3月	修士学位記授与式	

4-2 博士(後期)課程修了要件

以下のすべてを満たした場合、博士(後期)課程修了となり博士(造形)の学位を取得することができます。

- ・本大学院博士(後期)課程に所定の年限以上在学すること。
- ・本大学院博士(後期)課程の授業科目を10単位以上修得すること。
- ・研究指導を受けた上、博士論文についての審査及び試験に合格すること。

博士の学位授与プロセス

年次	月	事項	備考
1年次	10月	中間発表(公開)	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジュメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
2年次	10月	中間発表(公開)	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジュメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	3月	予備申請	教務課に以下を提出 ・学位授与予備申請書 ・博士論文中間報告書
3年次	4月	中間発表	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジュメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	9月	審査委員決定	研究科委員会にて審査委員承認
	10月中旬	学内発表会(研究科教員)	論文(草稿)に関する発表 ※事前に審査委員による確認を行う 発表の概ね1週間前に教員に配付するレジュメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	11月中旬	論文の提出	指導教員に以下を提出 (1) 学位授与申請書(課程博士)1部 (2) 博士論文(A4版、和文又は英文)正本1部、副本4部 必要に応じて研究作品一式を提出することができる。 (3) 博士論文要旨(A4版2,000字程度の和文及びA4版3枚程度の英文)各5部 (4) 論文目録及び別刷 各5部 (5) 履歴書 5部
	12~1月	論文審査・最終試験	審査委員による口頭諮問、論文審査 最終試験等
	2月	博士論文発表会(公開)	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジュメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	2月中旬	審査結果の報告	主査は審査委員会が作成した博士論文等審査結果及び最終試験結果報告書を提出
	2月下旬	修了及び学位の認定	研究科委員会にて修了及び学位授与の可否を審議、議決
	3月上旬	大学保管用	論文、公表論文データを教務課に提出
	3月	学位記授与式	

審査基準

博士論文の審査の評価は、以下の審査基準に基づき行います。

博士論文(研究作品を要しない場合)	博士論文(研究作品を要する場合)
(1) テーマ設定の適切性	(1) テーマ設定の適切性
(2) 分析力	(2) 技術的表現力
(3) 論旨の一貫性	(3) 論旨の一貫性
(4) 文章表現、論理構成	(4) 文章表現、論理構成
(5) 独創性、新規性	(5) 独創性、新規性
(6) 研究の成熟度	(6) 研究の成熟度
(7) 考察力	(7) 考察力
(8) 有用性	(8) 有用性
(9) 完成度	(9) 完成度
(10) 形式的要件	(10) 形式的要件

指導体制

研究指導は、主担当となる研究指導教員が行います。

研究内容に応じて、任意で「副担当」として論文作成指導能力を有する研究指導教員から指導を受けることができます。

在学期間の短縮

大学院学則第37条第3項の規定に基づき、博士（後期）課程において「特に優れた研究業績を上げた者」は研究科委員会の議を経て、在学期間を短縮することができます。

この場合、特に優れた研究業績を上げた者についての適用要件は以下のとおりです。

- (1) 研究を進める中でその研究が飛躍的に進行し完成した場合
- (2) 論文提出要件を満たし、かつ国際的に高い評価を受けた場合
- (3) 博士（後期）課程において所定の単位を修得していること

中間発表等のレジュメ形式

中間発表等で教員に配付するレジュメは以下の形式に沿って作成してください。また、発表プログラムを付してPDF形式にて教務課に提出してください。

※9ページの形式を参照してください。